

「イエスの名によって集まる時」(要旨)  
聖書箇所：マタイの福音書18章15~20節

【1】 交わりの中にある群れ-教会-

人は、一人で生きることにはできません。けれども実際は、他者と共に生きることには辛さを覚えることもあります。何気ないやり取りであっても、自分が語った言葉で相手を傷つけてしまうこともあれば、人の発した言葉に傷つき思い悩むこともあります。人と交流することで、見たくない自分の弱さや欠けを直視することもあるでしょう。

マタイの福音書 18 章は、弟子たちの「誰が一番偉いのか」の議論を発端に、教会の人間関係について教えています。

【2】 迷い出た羊として

本朝の聖書箇所は、教会の仲間があなたに罪を犯した時の対応についての勧めです。

まず、直接その人のところに行って罪を悔い改めるように指摘しなさい、とイエスは教えています(マタイ 18:15)。その際「柔和な心」(ガラテヤ 6:1)で接することが肝要です。私たちは自分の考えに相手を従わせようと「指摘する」ことがあります。この「指摘する」とは、「光にさらす」の意味を持つ動詞が使われています(BDAG,315)。罪を犯して危険な状態にある仲間を何とか神の光のもとに連れて行くことに関心が向けられているのです。

次に、個人的な指摘を受け入れない仲間への対応です(マタイ18:16)。二、三人の証人を連れて忠告するようにとイエスは勧めました(申命記19:15)。罪を指摘する側も完全ではありません。相手に対する先入観や不和が影響し正当な指摘とならない場合もあります。二、三の証人を連れて行くことは、仲間の罪を指摘する者が個人的中傷でないことを示し、悔い改めに導くためです。

最後に、それでも聞き入れない仲間への対応が記されています(同18:17)。証人たちは教会に伝えるようにとイエスは勧めています。教会が罪を犯した仲間、悔い改め

るよう勧めても聞き入れない場合には、教会の交わりから除外するようにと教えられています。厳しい対応を通して本人に悔い改めの機会を与えるためです。

こうしたイエスの勧めは、罪を犯した仲間を教会から締め出すための手引きではありません。むしろその反対です。一匹の迷った羊を捜す神の御思いにならって、迷い出た仲間を神のもとに連れて行くことを、イエスは教会に期待しておられるのです。

【3】 イエスの名によって集まる

迷い出た仲間を神の光のもとに連れていくためには、祈りが必要です。

「あなたがたのうちの二人が…」(同 18:19)とはあなたとあなたに罪を犯した仲間(同 18:15)を指し、「二人か三人が…」とは次に控えている証人たちを意味しているのでしょうか。

教会は人間関係の中で生じる様々な問題にさらされます。それでもキリストの名によって集まり、心を一つにして祈るなら、キリストがその中にいてくださるということです。私たちはそれを知る時に、謙遜にさせられ、教会の交わりに身を置くようになるのです。

▷私たちが今日も共に集まる理由はなんでしょうか。神を見上げて共に祈る時、その中にキリストがいてくださるからです。

